

# か だ る

k a d a r u

2011

12月冬号

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

輝く★シニア

## 復興への祈りを込めた「客船模型」

### 佐々木文男さん（宮古市）72歳

宮古市津軽石の佐々木文男さんは、約2年半かけて客船「飛鳥Ⅱ」の模型を完成させました。完成までには、大病の克服と東日本大震災の2度の困難を乗り越えなければなりませんでした。「最後まで諦めないで続けてきて良かった」と満面の笑みで完成までの経緯を話してくれました。

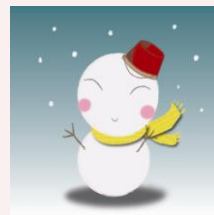
元外航船船長として約40年間航海していたため、「船の構造はよく知っている」と客船の写真をもとに設計図

を作成。実物の約200分の1のこの模型は、全長120cm、幅14.8cm、重さ約3kg。船体にはスクリューも取り付けられていて、モーターのスイッチを入れると作動し、水に浮かべても走行できるように作られています。主な材料には、軽くてやわらかい桐を使用。廃材を業者から譲り受け、再利用しました。竹を材料に鳥籠を作ったりするなど、元々手先は器用でした。定年退職後、県立宮古高等技術専門校

で臨時職員として勤務していた時期に独自に客船模型を作り始めました。最初に完成させたのが、航海実習船「日本丸」。

「飛鳥Ⅱ」の作成を始めたのは平成21年の春。模型作りは順調に進んでいましたが、同年7月、脳梗塞により突然倒れ、救急搬送されました。医師からは、「4、5日しかもたない。延命措置をしても2日くらいしか延びない」と告げられました。しかし、その後は奇跡的な回復を遂げ、3ヶ月で退院。しばらくは家族の協力のもと、失語症のリハビリに専念していましたが、徐々に日常生活に慣れると、それまで中断していた模型作りに自然と気持ちが向いていきました。

その後、大震災のため1ヶ月以上ライフラインが止まり、再度中断を余議なくされましたが、「周囲のおかげで生かされていることを実感する。また、震災という困難な中でもあきらめないでやり遂げたかった」と、模型作りへの気持ちは途切れていませんでした。そして遂に今年の10月に完成。「達成感を味わいたくて模型作りを続けているが、こうやって病気を克服してやり遂げたことが、少しでも希望になってもらえれば嬉しい」と佐々木さんは語っています。



# 高齢者の社会参加支援地域セミナーを開催

## 第二の人生応援セミナー（久慈市） ～いつまでも 楽しく元気に 輝いて！～

平成23年9月27日（火）、久慈地区合同庁舎で、第二の人生応援セミナー「シニアが元気！地域も元気！」を開催しました。当日は25名が参加。西和賀町社会福祉協議会事務局長の高橋純一氏が、「実践者から学ぶ、高齢者の社会参加と生きがい」～いつまでも 楽しく元気に 輝いて！～と題して講演しました。

高橋事務局長は、高齢化が進む豪雪地帯の西和賀町で、社会福祉協議会が取り組むサロン活動、ボランティア活動、買物支援、高齢者の持病や緊急連絡先カードを記載した「安心連絡カード」や「要援護者マップ」作成などについて説明。「西和賀町は高齢化率46.2%で高齢者が中心の町。高齢者が元気でなければ地域も元氣になれない」と高齢者に配慮した地域づくりについて話しました。

また、高齢者の生き甲斐対策と秋田県との県際交流という趣旨で平成11年から演劇活動を開始したことにも触れ、平均年齢73歳の素人の劇団が東京公演を行なったときの映像も紹介されました。このシニアの劇団は、毎回メンバーを入れ替え、座の名称、演題も変えて演じているとのことでした。

講演の後、二つの活動団体が事例紹介を行ないました。



講演に、熱心に耳を傾ける参加者

久慈市の「傾聴ボランティアこころ」は、自殺予防のために、相手の話をひたすら聴く傾聴活動を紹介。施設や個人宅に行って傾聴活動をする様子やサロン活動などについて話しました。「豊岡自治振興会」は、岩手町豊岡地区に住む移動手段のない高齢者のために、買い物や通院を支援する買物バス事業を展開していることを紹介。高齢者の孤立、孤独の防止のためにも重要な役割を果たしていることを強調しました。

## 高齢者の社会参加支援地域セミナー（大船渡市） ～「ありがとう」と言って頂く人生～

平成23年10月19日（水）、大船渡市民文化会館マルチスペースで、高齢者の社会参加支援地域セミナーを開催し、約60名の方が参加しました。

講師は、NPO 法人夢ネット大船渡理事長、気仙市民復興連絡会会長の岩城恭治さん。「震災後の地域社会と高齢者の暮らし」～「ありがとう」と言って頂く人生～と題して講演しました。

講演では、これまで行なってきた NPO 活動を紹介しながら、そこから感じたことなどを話しました。

夢ネット大船渡は、平成18年に設立。気仙地区に NPO 中間支援組織がなかったことが NPO 法人を立ち上げるきっかけとなりました。その後、三陸鉄道三陸駅を活用した事業、パソコン講座、ホラふき大会、講演会など様々な活動を展開。3月11日の震災直後には、気仙市民復興連絡会を設立し、仮設住宅のパトロールや三陸鉄道盛駅舎活用事業などに取り組んでいます。そのような活動の中で、「一生懸命に努力すれば誰かが助けてくれるということを常に実感する」と言っています。さらに、「生きがいをつくるためには、まず、他人を心配し、周囲を元気にする方法はないかと意識し、行動すること。それが、ありがとうという言葉によって自分に帰ってくる」と語りました。

講演の後には、大船渡市内の二つの活動団体から活動事例が紹介されました。「音声訳オープンハート」は、視覚障害者をサポートするためデジタル機器を使用した音声訳活動について話しました。また、「寺町桜を育てる会」は、大船渡市日頃市町の住民が一体となって桜並木を復活させるための苗木の植樹や、環境整備を行なっている様子を紹介しました。



講師から、種々の地域活動が紹介されました。



## ■奥州宇宙遊学館（NPO法人イーハトーブ宇宙実践センター：奥州市）サイエンスコンダクターによる理科実演

サイエンスコンダクターとは、現役を引退した理科教師、研究者、技術者など、理科の不思議案内人によるボランティア活動です。「光ファイバーって何?」、「音は見えるの?」、「放射線とは?」など、約10のプログラムを身近な材料を使用して実演することによって、理科の面白さを感じてもらうことを目的としています。「理科離れを食い止めるため、戦後の科学技術立国日本を築き上げてきた豊富な知識と経験を持つ人にもう一度貢献してもらいたい」と昨年からの募集を始め、現在、サイエンスコンダクターとして14名が登録しています。学校、子供会、高齢者クラブ等から実演依頼を受け、出向きます。

河野館長は、「ショーのように見て驚くだけではなく、理科への興味、探求心を深めて、理科学習に対して積極的になってもらいたい。また、理科の話を通じ孫に聞かせるように、参加者と一緒に手足を動かしながら、理科の楽

しさについて考えることを大切にしています」と語っています。また、サイエンスコンダクターとして活動できる方も引き続き募集をしていきます。

お問い合わせは、奥州宇宙遊学館0197-24-2020まで。

（この事業には、岩手県長寿社会振興財団の助成金が活用されています。）



子供と一緒に実演を行なうサイエンスコンダクター

## ■NPO法人サロンたぐきり（久慈市）高齢者に寄り添う支え合い活動

NPO 法人サロンたぐきり（関合征子理事長、会員25名）は、「こころとからだの健康を守る」ことを目的に平成18年6月、久慈市栄町の一角に開設したサロン「たぐきり」が前身となっています。今年の8月にNPO法人化し、体制を整えました。主な活動は、毎週月曜・木曜の

サロンの開所、個別対面相談です。サロンは、午前と午後の計2回開催し、1日に約20人の高齢者が来所します。サロンでは、健康相談、歌や踊りの催し物を行うほか、悩みなどの話を聞いてもらう個別対面相談を行なっています。また、現在は、被災された方を対象にした傾聴活動も行なっています。

関合理事長は、「閉じこもりやうつ病、認知症対策に重点を置いて活動しています。気軽に立ち寄ってお喋りができたり、ホッと一息できる場所を目指しています。さらには、高齢で病気になっても、近所で支え合いのグループができることを期待しています」と語っています。

お問い合わせは、サロン「たぐきり」0194-75-3790まで。

（この事業の一部に、岩手県長寿社会振興財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）



演歌に合わせて体操を楽しむサロン参加者の皆さん

### コラム ～書籍紹介～

#### 「老いの歌」小高 賢（岩波新書）

短歌はもはや青春の文学ではない、短歌と老いとは相性がいいのだと著者は言う。高齢の一般人の投稿短歌を、日本農業新聞の歌壇や宮崎県社協刊行の要介護高齢者等の歌集「老いて歌おう」などから多数引用し、老いの種々相の多様さを垣間見せる。定年後も長い時間があるのだ。歌を通して、老いとは何か、老いをどう生きるか、を考えさせられる。



### シニア層を対象にした交流サイトの紹介(2)



#### 中高年・シニア世代交流サイト「い～悠々.COM」

<http://www.e-yuyu.com/>

「楽しむこと」や「感動すること」、「問うこと」などが、一般のシニアから投稿され、その内容を自由に閲覧できます。

#### シニアデジタルライフ

<http://www.seniordigitallife.jp/>

パソコンやデジタル機器についての質問コーナーやシニアが更新するブログが掲載されています。

男声合唱団「松園シルバーダックス」（達増崔夫代表、会員25人）は、松園地区の60歳以上の男性で構成する合唱団。平成14年1月に4人で結成したのが始まりです。女声合唱団が多い中で、男声合唱の魅力に惹かれる人たちが集まりました。また、松園地区では高齢化が進み、社会活動がやや停滞する中で、シルバー世代ががんばって元気を発信したい、という動機もありました。スナックや美容院にもチラシを置いて会員を募集。会員も着実に増えて、現在は25名となっています。

平成17年に、岩手県民オーケストラ会長の滝沢三郎さんを指揮者に迎えてからは、練習も本格化し、合唱団らしくなりました。入会時は合唱の経験は皆無の人が大半ですが、それでも、数年経つと皆それなりに楽しむことができるようになるということです。演奏会は、県や市などの芸術祭、松園中学校文化祭、松園地区芸術文化祭など年に10回程度をこなしています。



演奏会も間近の11月1日、熱の入る練習風景



満員の聴衆を前に会心のハーモニー

楽しみは演奏会終了後に地区内の飲食店で開かれる反省会。チームワークで共に美しいハーモニーを作り出した後の充実感、連帯感に支えられた集いは、また格別のものがあるのでしょう。

11月5日には、松園地区公民館で、シルバーダックス主催の東日本大震災復興支援・10周年記念コンサートが、開催されました。女声合唱団「もりおかフラウエンコア」及び男声合唱団「響流はなまき」が賛助出演。会場のホールを埋め尽くした200人を超える聴衆は、シルバーの美しいハーモニーに聞き惚れていました。

代表幹事の村谷さんは、「ひとつの目標としての10周年をクリアして、これからも少しずつでもレベルを高め、シルバー世代の合唱団としての存在感を高めてゆきたい」と語っていました。

お問い合わせは、村谷公基さん（電話019-662-1044）まで。

## 平成24年度「ご近所支え合い活動助成金」申請受付開始のお知らせ

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、平成24年度「ご近所支え合い活動助成金」の申請受付を、平成23年12月15日（木）から開始いたします。第1回目の締切りは平成24年2月29日（水）必着です。

申請についてのご相談、お問い合わせは岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターまでご連絡ください。  
※「ご近所支え合い活動助成金」とは、県民が共に支え合う活動を支援し、安心して暮らし続けることができる地域社会を実現するため、県民の地域貢献活動等を支援するための助成制度です。概ね市町村単位もしくは市町村の一部で行なう、「高齢者が主体となって行なう活動」または、「高齢者等をサービスの対象とした支え合い活動」を対象としています。



企画・発行/岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター 平成23年12月10日発行

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 アイーナ6階 tel 019-606-1774 Fax 019-606-1765

E-mail koreisha-hfk@aiina.jp URL <http://www.aiina.jp/advancedage/index.html>

特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託運営しています。

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通 3-7-30 tel 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>